

令和 3 年度市民アンケート調査結果を踏まえた課題等

ジェンダー平等の推進

問 2 各場面で、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思うか。

・ 10 の各場面（①社会全般の風潮、②法律・制度での扱い、③政府や企業での重要な意思決定の場、④学校生活などの教育の場、⑤就職の機会、職場での働き方や処遇、⑥家庭内での決定権や家事の分担、⑦町内会・自治会の活動、⑧PTA やボランティアなどの地域活動、⑨テレビや新聞での扱われ方、⑩人生を決める選択肢や自由さ）すべてにおいて、肯定的な回答「そう思う」「どちらといえばそう思う」が平成 28 年度と比較して低下しています。

問 3 あなたの身の回りで男女共同参画は進んでいると思いますか。

選択肢	全体	男性	女性
進んでいる	34.2%	41.4%	28.8%
進んでいない	65.8%	58.6%	71.2%

→「進んでいない」と回答した割合は 65.8%と高く、女性の割合の方が高くなっています。男女共同参画が進んでいないと感じている人はいまだ多い傾向にあります。

問 4 男女共同参画がなかなか進まない理由 回答上位

- ・「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」：32.1%
- ・「人を性別によって役割を区別する考え方や慣習が根強いから」：30.0%
- ・「女性の役割は家庭内での家事、育児、介護などという考えが強いから」：15.5%

→性別を問わず、上記 3 件の選択肢の割合が高くなっています。

「固定的な根強い意識、慣習、考え方により、男女共同参画が進んでいない」と考えている人が多い傾向にあります。

問 11 政治、経済、地域社会において、重要な決定を行う話し合いの場に女性の割合を増やそうとする取組み 回答傾向

→議員、行政組織、民間企業、町内会・自治会や学校の PTA 全てにおいて、意思決定をする役職・場で、「女性の割合がもっと高くなってほしい」と考えている人が多い傾向にあります。

ワーク・ライフ・バランスの実現

問 10 女性が長く働き続けるために特に重要なこと 回答上位

- ・ 保育サービス等の整備の充実：47.2%
- ・ 育児・介護休業制度等の充実：46.3%
- ・ 賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消：41.5%
- ・ 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力：36.5%
- ・ フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入：36.5%

→職場環境の改善や働き方改革の推進が高い傾向にあります。

問 12 性別を問わず仕事と生活を両立できるようにする公的な取り組みとして、最も重要だと思うもの 回答上位

- ・ 両立支援のための制度の強化：30.1%
- ・ 社会全体に対する意識づくり：27.1%

→制度の強化を促進する取組みや職場環境の改善、継続的な意識啓発が必要です。

問 14 男性が育児休業や介護休業などを取ることにについて、あなたの考えに最も近いもの

① 育児休業

選択肢	全体		男性	女性	H 2 8 調査	
積極的に取るべき	55.2%	92.3%	52.0%	57.2%	35.4%	81.9%
どちらかといえば、取る方がよい	37.1%		39.0%	36.0%	46.5%	
どちらかといえば、取らない方がよい	6.8%	7.7%	8.1%	5.9%	15.1%	18.2%
取るべきではない	0.9%		0.8%	0.9%	3.1%	

→男性育児休業取得に対する意識が特に高まっています。

問 15 育児休業や介護休業を取る男性が、女性より少ない理由 回答上位

- ・ 職場の理解を得られないから：39.6%
- ・ 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから：14.5%
- ・ 休業後の職場復帰に不安があるから：11.5%

→職場での意識変化や、職場環境の改善が必要です。休業中の収入については、制度改善が必要となります。

問 16 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加して
いくために必要だと思うもの の回答上位

- ・労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く
持てるようにする：30.1%
 - ・職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる：21.6%
- 職場での意識変化や、職場環境の改善が必要です。

リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理解促進

問 5 ① 女性は子どもを産む／産まないを選ぶ権利を持っている。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	59.7%	87.3%	59.2%	88.3%	60.0%	86.6%
どちらかといえばそう 思う	27.6%		29.1%		26.6%	
どちらかといえばそう 思わない	8.1%	12.7%	7.3%	11.8%	8.9%	13.4%
そう思わない	4.6%		4.5%		4.5%	

- ・10人に1人以上（12.7%）の人が否定的な回答になっています。
- リプロダクティブ・ヘルス／ライツの考え方の浸透や理解促進が課題と
なります。

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	59.7%	77.1%	72.7%	78.5%	58.8%	58.5%	52.2%	44.1%
どちらかといえば そう思う	27.6%	14.6%	18.2%	15.9%	30.1%	33.3%	30.6%	33.6%
どちらかといえば そう思わない	8.1%	6.3%	6.5%	1.9%	8.1%	4.8%	12.1%	13.2%
そう思わない	4.6%	2.1%	2.6%	3.7%	2.9%	3.4%	5.1%	9.2%
		48人	77人	107人	136人	147人	157人	152人

多様な性の尊重に対する理解促進や支援の充実

問 5 ⑥ 同性のカップルが養親や里親になってもよい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	39.9%	70.0%	28.5%	59.6%	48.2%	77.8%
どちらかといえば そう思う	30.1%		31.1%		29.6%	
どちらかといえば そう思わない	18.8%	29.9%	24.9%	40.4%	14.5%	22.2%
そう思わない	11.1%		15.5%		7.7%	

→多様な性に関する理解促進が課題となります。

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	39.9%	52.1%	51.9%	55.7%	48.1%	31.9%	32.3%	26.7%
どちらかといえば そう思う	30.1%	33.3%	23.4%	23.6%	24.4%	44.4%	31.6%	26.7%
どちらかといえば そう思わない	18.8%	10.4%	19.5%	13.2%	14.8%	16.7%	24.1%	26.0%
そう思わない	11.1%	4.2%	5.2%	7.5%	12.6%	6.9%	12.0%	20.5%
		48人	77人	106人	135人	144人	158人	146人

問 24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に
悩んだことがありますか。

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
自分自身 悩んだことがある	6.5%	5.8%	7.0%	3.1%
自分自身 悩んだことはない	93.5%	94.2%	93.0%	96.9%

→「悩んだことがある」割合が倍増しています。相談機関の充実や、相談
できることの周知啓発が必要です。

問 25 現在、性的マイノリティ（または LGBT）の方々にとって、偏見や
差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

選 択 肢	全 体		男 性	女 性	H 2 8	
そう 思 う	37.3%	85.2%	33.3%	40.2%	30.0%	77.5%
どちらかといえばそう 思 う	47.9%		47.2%	48.7%	47.5%	
どちらかといえばそう 思 わ ない	11.2%	14.8%	13.6%	9.3%	14.9%	22.4%
そう 思 わ ない	3.6%		15.8%	1.9%	7.5%	

→多様な性の尊重に対する理解促進と支援の重要性の継続的な啓発が必要
です。

問 26 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような対策が必要か。

回答上位

- ・生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う：35.1%
 - ・働きやすい職場環境づくりの取り組みをする：34.6%
- 教育現場や事業所での啓発

暴力のない社会の実現

問 19 セクハラをなくすためにはどのような取り組みが必要だと思いますか 回答上位

- ・セクハラは人権侵害だという社会意識づくり：48.6%
- 継続的な意識啓発が必要です。

問 21 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力（DV）について、相談できる機関

- ・相談できる機関を知らない：10.3%
- 改善傾向にありますが、継続的な意識啓発の必要です。

問 22 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力（DV）に対する対策や支援として特に重要だと思う取り組み 回答上位

- ・いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備：53.9%
 - ・家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発：52.0%
- 継続的な意識啓発が必要です。

男女共同参画全般

問 29 男女共同参画社会をつくるために、最も必要だと思うこと 回答上位

①個人で心掛けること

- ・「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する。：36.5%

②家庭での取り組み

- ・家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する：45.5%

③社会全体での取り組み

- ・性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する：45.1%

④横須賀市における取り組み

- ・学校教育における男女共同参画教育を進める：33.8%
- ・事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける：30.7%

選択肢	全体	男性	女性	H 2 8 調 査
学校教育における男女共同参画教育を進める	33.8%	33.7%	34.2%	21.9%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	11.8%	14.0%	10.0%	9.0%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.8%	12.1%	11.7%	11.4%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	30.7%	27.8%	33.3%	37.5%
多様な保育サービスを充実する	18.1%	18.3%	18.1%	21.3%
介護施設、介護サービスを充実する	18.2%	16.4%	19.6%	26.2%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	4.1%	4.3%	4.0%	3.7%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	14.3%	14.6%	14.4%	7.7%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	7.5%	8.4%	6.7%	9.8%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.5%	4.0%	6.3%	5.3%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	4.5%	5.4%	3.8%	5.3%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	3.5%	3.0%	4.0%	2.0%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	9.9%	13.2%	7.5%	10.3%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	7.2%	4.3%	9.2%	8.0%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	5.1%	5.1%	4.8%	4.5%
男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	3.8%	3.8%	4.0%	4.0%
その他	2.2%	3.2%	1.0%	3.5%
合計人数	858 人	371 人	480 人	848 人